

まちづくりの担い手としての当事者 聴き書きの協働実践を通じて

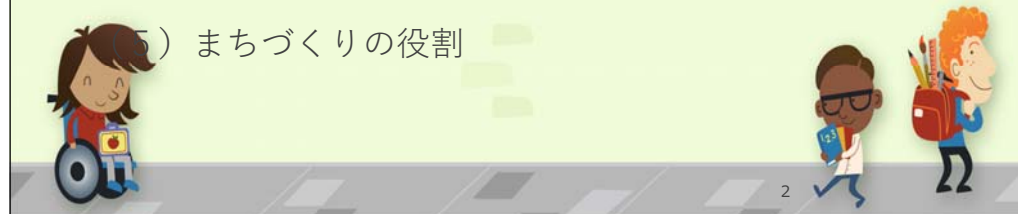
2019年9月2日

大阪大学人間科学研究科
未来共創センター
石塚 裕子



お話する内容

- (1) 岡山マインド「こころ」の仲間たちとの出会い
- (2) 復興まちづくりの担い手は？
- (3) インクルーシブな復興まちづくりへの挑戦
 - 被災者交流会「まちコン」
 - 復興ビジョン「お互いさま復興」の提案
 - 真備への想い数珠つなぎプロジェクト
- (4) まちづくりの担い手としての当事者
- (5) まちづくりの役割



(1) 岡山マインド「こころ」の仲間たちとの出会い 【経緯】

7月19日～災害ボランティアセンターで電話受付のお手伝い

7月26日 高齢者、障害者への支援体制について、

NPO法人岡山マインドこころの多田氏に相談する。

8月25日 NPO法人岡山マインドこころの精神障害当事者主催の

「被災者交流会」を開催 *以降、毎月第3土曜開催

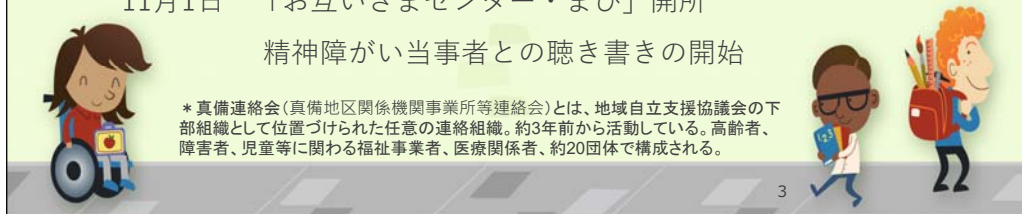
9月3日 真備連絡会(*)を再開 *以降、毎月第2木曜開催

「お互いさまセンター」の設立を提案

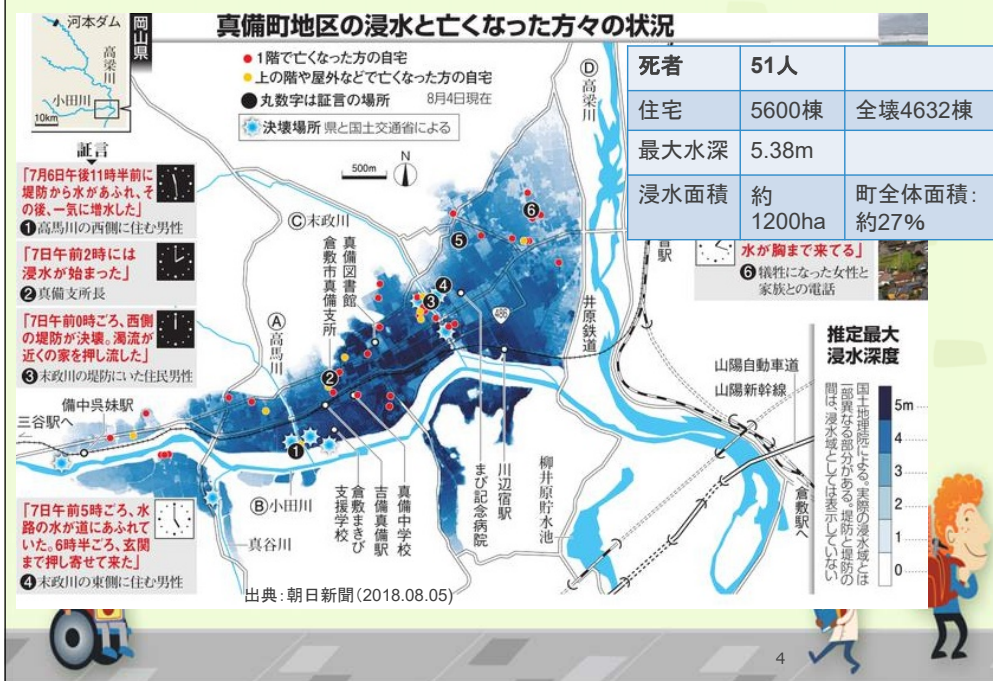
11月1日 「お互いさまセンター・まび」開所

精神障がい当事者との聴き書きの開始

* 真備連絡会(真備地区関係機関事業所等連絡会)とは、地域自立支援協議会の下部組織として位置づけられた任意の連絡組織。約3年前から活動している。高齢者、障害者、児童等に関わる福祉事業者、医療関係者、約20団体で構成される。



参考：真備町の被害状況



参考：真備町の人的被害

- 避難行動要支援者名簿 登録者数 **42人**(約82%)
- 高齢者数 65歳以上**45人**(約88%)、75歳以上**31人**(約61%)
- 障害者
65歳以下の死亡者6名の内、2名(親子)は知的障害者(*1)
- 亡くなられていた場所

場所	階	建物構造
建物内 43人 (約84%)	一階部分 42人	二階建 21人
		平屋建 21人
	二階部分 1人	
屋外 8人(約16%)		

■地区別死亡者数

出典：朝日新聞記事(20180805)より作成

	服部	尾崎	箭田	有井	下二万	川辺	辻田	岡田
死亡者数	4人	4人	11人	15人	4人	6人	6人	1人
決壊箇所	有	有	有	有				
決壊日時又は 推定浸水日時 (*2)	7日 AM00:00	7日 AM00:00	6日 PM11:30	7日 AM00:00	不明	7日 AM7:00	7日 AM~	7日 AM8:30

*1:ハートネットTV(2018.10.29放送)より

*2:山陽新聞記事(2019.01.12)、住民インタビューより推定したものであり、必ずしも正確ではない

5

(2) 復興まちづくりの担い手は？

・復興まちづくりの特徴

複数の事業が同時進行する。(検討事項が多岐にわたる)

スピード感が求められる。(検討期間が短い)

行政職員が疲弊している。(きめ細やかな対応が難しい)

・災害復興における住民参加

事業に係る**地権者**の参加は実績が積み重ねられてきた。

上位計画(復興計画)は**代表者**制で策定される場合が多い。

→**マジョリティ**(少数派)の意見が反映される機会、場がない。

6

(3) インクルーシブな復興まちづくりへの挑戦

ひとの復興

- ・移動支援(2018.11.1~)
- ・まちコン(被災者交流会)の開催
- ・真備への想い数珠つなぎプロジェクト(被災者リレー式インタビュー)

まちの復興

- ・復興ビジョンアンケート(2018.11)
- ・復興ビジョンの提案(2018.12.19)
- ・お互いさま復興を考える会(勉強会)
- ・住民主体の復興プロジェクト(減災への取り組み、居場所づくり)

お互いさま
センター
まび

<https://www.facebook.com/pg/お互いさまセンターまび-1190652597758209>

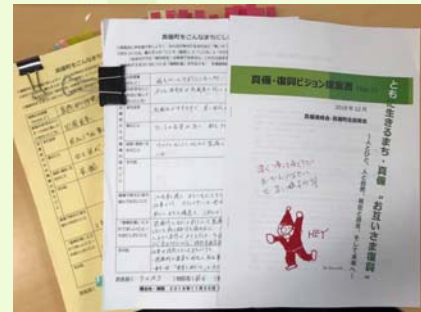
7

まちコン
(被災者交流会)
毎月第三土曜開催



8

復興ビジョンの提案 (2018.12.19)



真備連絡会が中心となって601名の
「小さな声」を集めて、復興ビジョンと
して提案
“お互いさま復興”

9

真備への想い数珠つなぎプロジェクト (リレー式インタビュー)

障害当事者との協働事業



10

(4) まちづくりの担い手としての当事者

参加者ではなく、“主催者側”で関わる(まちコン)

⇒「顔は知っていたけど、初めてちゃんと話かけられた」(まちコン・短冊コーナーを担当時)

聴かれるばかりでなく、“聴く側”に立つこと(リレー式インタビュー)

⇒「初めて避難所の様子を聞いた。勉強になった。」

「商工会の人と話すのは初めて。いろんな立場の人が復興に関わらないといけないと思った。」

一緒に行動する仲間がいること、支援者は仲間に入ること

⇒仲間、人業



岡山マインドこころ 矢吹さん

「災害があり不安な部分もあったが、災害後、地域の人達との関係が密になった。あいさつ程度だった人が、車に乗せてくれたり、話しかけてくれたりする機会があった。」

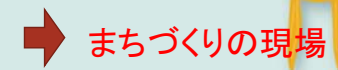
「復興ビジョンを提案したり、インタビューをして『真備のまちに帰ってきてほしい』という声を聞いていく中で、障害があろうが、高齢であろうが、子どもであっても、自分たちの力でまちを復興できると思えるようになってきて、まちづくりへの希望が支えてくれるように思う。」

(2019.01.25 岡山県福祉施設・事業所研究交流会 講演会記録より)

(5) まちづくりの役割

作業療法における「意味のある作業」

- ・対象者が自ら意思表示した作業
- ・対象者の生活史の中にある作業
- ・それを行うことで新たな自分につながる作業

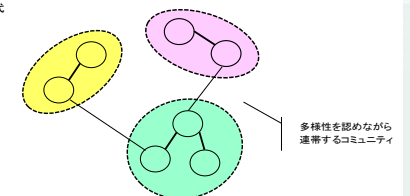


まちづくりに当事者が主体的に関わるには？
(インクルーシブな状況をつくる)

少数であっても同じカテゴリーに所属するもの同士が、苦勞を分かち合うための言語や仲間を獲得し、それぞれに表出できること。

そして少数派のカテゴリーが違いを認め合ううえでなお、つながることできる状況をつくること。

第三世代



インクルーシブなまちづくりをめざして、
できることから一緒(with You!)に取り組んでいきましょう！

ご清聴ありがとうございました！

y-ishizuka@hus.osaka-u.ac.jp

